

OnAir 3000 ユーザーレポート

株式会社エフエム東京 様

OnAir 3000-12F/18F



6つの収録スタジオをOnAir 3000で更新



株式会社エフエム東京
総務局 技術部
秋山 拓也

収録スタジオの更新

弊社は、約15年に渡って使用してきた6つの収録スタジオを更新しました。これらのスタジオは、ナレーション・簡単な生演奏の収録の他、完パケ番組の組み立て、予備の生放送スタジオとしての運用など、様々な用途で使用され、平日は空いている時間がない程、稼働率は非常に高いです。また、スタジオで作業をする人も、ベテランのミキサーから、技術的には初心者のディレクターまで様々です。卓の選定にあたっては、高い稼働率に対応できる信頼性、ベテランから初心者まで幅広い技術スキルに対応できる柔軟な操作性、導入後のメンテナンス性、そしてコストパフォーマンスを重視し、6つすべてのスタジオについて、STUDER OnAir 3000を選定しました。

システムインテグレーション

今回の更新にあたって、スチューダー・ジャパンブロードキャスト様に卓の提供だけでなく、システムインテグレーションも担当していただきました。限られた予算の中でも良いも

のを作ろうと機材周りだけに止まらず様々なアイデアを出していただきました。例えば、アナウンステ이블です。テーブルに手を置く振動が卓上マイクスタンドを伝ってドンドンというノイズになってしまう現象が、更新前からの懸案事項でした。予算の関係から天吊りではなく以前と同じく卓上マイクスタンドで行うことが決まり、その懸案事項が問題となりました。そこで提案いただいたのが、テーブルの真ん中、卓上スタンドの台座を置く範囲を切り取り、独立した2つのテーブルにすることで、台座へ振動が伝わらない構造にするアイデアでした。マイクからCNパネルへのケーブルの引き回しもやりやすいように工夫していただき、大変使いやすいアナウンステ이블が出来上がりました。音声卓だけではなく、周辺機器の選定でも、様々な情報・アイデアを出していただき、トータルのスタジオシステムで見て、大変使いやすい環境が構築できたと思います。また、OnAir 3000は、かなり細かい部分の動作まで設定できるため、実際に導入してからの運用方法の変更にも柔軟に対応可能でした。フェーダー数はスタジオの大きさ・用途に合わせて、18フェーダーと12フェーダーのモジュールタイプを選択し、副調整室のミキサーデスクに埋め込みましたが、それぞれのモジュールを自由に

配置することができるため、原稿やPCなどを置けるスペースを十分確保しつつ、オペレーションがしやすい配置にすることができました。

導入

新スタジオへの移行は、6スタジオを1つずつ順番に、休むことなく行うというタイトなスケジュールでしたが、とてもスムーズに行うことができました。技術的には初心者の方でも、ボタン一つでデフォルトの設定が呼び出し、すぐに収録が始められますし、慣れている方は、手の込んだ設定を自分で作り、番組制作の作業効率を格段に上げています。

今回の更新にあたり、限りある予算・タイトなスケジュールの中、様々な面でご尽力いただいたスチューダー・ジャパンブロードキャスト様及び関係各社の皆様に御礼申し上げます。

